恋しくって恋しくって……
やっと逢えた
いまだけは
どうかやさしい言葉をかけて……
いつまでもと思っているのなら——

それはまさに一瞬の光——
昨日
それも夕方
逢ったばかりなのに
今朝にはもう
恋しく思っている
そんなわたしでイイノカナ……

万葉集
MANYO-SYU

実は右の詩、これは万葉集の中の恋の歌を「おしゃべり言葉」にしたもの。「万葉集」や「和歌」…と聞くと、敬遠してしまいそうになりますが、今も昔も変わらない「恋する気持ち」「自然を愛でる気持ち」「愛する人の死を悼む気持ち」「社会のしがらみに悩む思い」…が歌われているのです。難しいうんちくは抜きにして、肩の力を抜いて万葉集を楽しんでみませんか？

右の「おしゃべり言葉」訳は、以下の本からの抜粋。上野氏は、歌が伝えようとしている心を、現代人の心に感覚的に伝わる様、意訳・誇張・補足を大胆に行っています。古典と現代のコラボレーションを味わってみてはいかがでしょう？

小さな恋の万葉集

上野誠＝著　佐藤秀明＝写真
小学館 ¥1,400

日本最古の現存歌集

「万葉集」は、7世紀前半から8世紀後半頃にかけて編纂された、日本に現存する**最古の歌集**です。

天皇、貴族から下級官人、農民ら様々な身分の人間が詠んだ歌が、**4516首**も集められた**全20巻**からなる歌集です。

「万葉集」には、**514名(男性400名・女性114名)の歌が掲載**されています。しかし、この数字は作者未詳歌を含んでおらず(作者未詳歌は2103首)、作者未詳歌を一人一首で計算するならば、全部で2617名の歌が掲載されているということになります。

書名の由来は幾つかの説が提唱されていますが、ひとつは**「万の言の葉」を集めたとする説**。「多くの言の葉＝歌を集めたもの」と解釈するものです。他には、**「末永く伝えられるべき歌集」**とする説、葉をそのまま木の葉と解して**「木の葉をもって歌にたとえた」**とする説などがあります。

成立は759年以後と見られていますが、詳細は判っておらず、古来種々の説があります。各巻それぞれに編者が異なっていて、**家持の手によって20巻にまとめられた**とする説が有力です。

歌について

歌の種類は内容上、次の三つに分類されています。

☆恋の歌〔相聞歌(そうもんか)〕
☆哀悼の歌〔挽歌(ばんか)〕
棺を曳く時の歌。死者を悼み、哀傷する歌。
☆左記二項以外の歌

〔雑歌（ぞうか）〕
公の性質を持った宮廷関係の歌、旅で詠んだ歌、自然や四季をめでた歌など。

歌体は主に次の三つです。

○短歌－五七五七七

「万葉集」の九割を占める歌体

○長歌－五七五七…五七七
最初の五七を2回以上繰り返し、最後を五七七で締めくくるのが基本で、十数句から二十数句のものが多い。長歌の後ろに別に添える短歌のことを「反歌」と呼ぶ。

○旋頭歌－五七七五七七

時代区分と傾向

歌を作った時期により、「万葉集」は4期に分けられています（左記年表参照）。

歌の作者層を見てみると、皇族や貴族から中・下級官人などに波及していき、作者不明の歌は下級官人や庶民の歌と見られ、庶民にまで広がっていったようです。さらに、地域的には、宮廷周辺から京や畿内、東国というふうに範囲が時代と共に拡大されていったと考えられています。

最も多くの歌を残した家持

「万葉集」を最終的にまとめた人物とされている大伴家持。実は**家持は、万葉集の中で最も多くの歌を残している人物**でもあるのです。全20巻4516首のうち、作者の判明している歌でカウントすると、

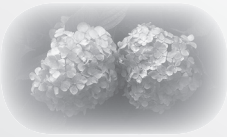
【ベスト5】
1位　大伴家持（473首）
2位　柿本人麻呂（91首）
3位　大伴坂上郎女（84首）
4位　山上憶良（76首）
5位　大伴旅人（71首）

となっており、家持は圧倒的な数の歌を残しています。しかも**家持が詠んだ歌の473首のうち、越中の地で詠んだものはなんと220首余り**もあります。

柿本人麻呂は、和歌の世界で一世風靡した天才歌人で「歌聖」と称えられました。しかし、その生涯は謎に包まれています。大伴坂上郎女は、家持の叔母に当たる人物で家持の才能を開花させた女流歌人です。恋多き女性で、恋愛の歌を多く詠んだことで有名です。山上憶良は、貧困や生老病死、愛別離苦といった社会や人生を真正面から取り上げた歌風が特徴です。大伴旅人は家持の父で、和歌や漢文学に優れ、また政界においても順調に昇進を重ねたエリートです。

サクラパックス(株)

万葉集とその時代背景

	時代背景	大伴家持	万葉集
456	雄略天皇即位 万葉集の1番目に登場する人物である		
552	百済より仏像や経典届く		
593	聖徳太子摂政となる		
603	冠位十二階を制定		
604	憲法十七条		
607	小野妹子 随へ		
621	聖徳太子死去		
629	舒明天皇即位		○第1期（629～672年） 皇室の行事や出来事に密着した歌が多い。 代表歌人 額田王・藤原鎌足・天智天皇・天武天皇ら。
645	大化の改新		
661	百済救援軍、難波を発つ 熟田津出港の際、額田王が詠んだ歌は有名		
672	壬申の乱		
673	天武天皇即位		○第2期（～710年） 官人達の儀礼的な場での宮廷賛歌や旅の歌などが有名。 代表歌人 柿本人麻呂・天武天皇・持統天皇・大津皇子・大伯皇女・志貴皇子など。
690	持統天皇即位		
697	文武天皇即位		
701	大宝律令完成		
702	山上憶良、遣唐使として出発		
710	平城京へ遷都		
712	『古事記』完成		
718	養老律令が完成	家持　大伴旅人の長男として生まれる	○第3期（～733年） 個性的な歌が生み出された時期。多彩な歌風が展開された。 代表歌人 山部赤人、大伴旅人、山上憶良など。
720	『日本書紀』完成		
724	聖武天皇即位		
726	山上憶良、筑前国守として赴任		
727		父 旅人 大宰帥として赴任	
732		父 大伴旅人 死去	
733			
738		家持 朝廷に出仕	○第4期（～759年） 政情不安の世を反映し、繊細で観念的な歌が多い。 代表歌人 大伴家持・大伴坂上郎女など。
746		越中国守として赴任 その間に弟 書持 死去	
749	孝謙天皇即位		
751		家持 少納言となって帰京	
752	東大寺大仏開眼供養		
757	淳仁天皇即位		
759		家持『万葉集』最後の歌を詠む	
785		家持 病死。死後すぐに、遺骨が隠岐に流される	
794	平安京へ遷都		
806		家持 無罪として旧の官位に復される	

名門の貴公子　家持

大伴氏は、5世紀後半より勢力を伸ばし始めた軍事氏族の名門でした。天皇のおそばについて、親衛隊のような仕事をしていた武門です。家持は、高貴な家の長男として生まれ、そして申し分のない教育を受けて育ちました。

万葉集で確認できる家持の27年間の歌歴のうち、越中赴任以前の14年間は158首、越中時代の5年間の歌数は223首、それ以後の8年間は92首となっており、越中時代の5年間の歌数が圧倒的に多くなっていますが、家持は越中に赴任する以前から、都で当代随一の大歌人として名を馳せていました。

教養と才能に溢れた家持は多くの女性の憧れの的であり、多くの恋の歌も残しています。

家持サマのプロフィール♥

☆ご趣味　鷹狩り
☆お好きな花　なでしこ
☆お好きな鳥　ほととぎす
☆一番お好きな季節　春

栄華は短く…

746年越中国守に任ぜられ751年に少納言となって帰京するまでの5年間、越中に在任していましたが、帰京後の昇進はきわめて遅れ、しかもその官職は都と地方との間をめまぐるしく行き来しており、恵まれていませんでした。政界の抗争に巻き込まれ、藤原氏の大伴氏に対する圧迫を受け続けていたようです。家持は一族を存続するため、ひたすら抗争の圏外に身を置こうとしますが、そのため同族の信頼を失うこともあったようで、一族の長として奮起しなくてはならぬという責務と、あきらめとの間を迷い続けていたことを、歌にも詠んでいます。

遺骨が島流しに

785年68歳で病気で亡くなりますが、悲運は死んでからも続き、死後20日、葬儀も終らないうちに、藤原種継暗殺事件の首謀者とされ、除名・官位剥奪・領地没収のうえ、その遺骨が実子の永主とともに隠岐に流されます。家持が無罪として旧の官位に復されたのは806年でした。

家持の歌

数ある家持の歌の中から、少しご紹介します。

万葉集に初めて登場する歌

振り放けて　三日月見れば　一目見し
人の眉引き　思ほゆるかも
（巻19－4250）

空を振り仰いで三日月をみると、あのとき一目みたあの人の眉の美しさが思い起こされてならない。

「一目見し人」とは、後に妻となる坂上大嬢のこと。家持15歳ころの歌。家持は多くの女性たちと恋の歌を交わしたようです。

明日の日の　布勢の浦廻の　藤波に
けだし来鳴かず　散らしてむかも
（巻18－4043）

明日という日は、布勢の浦辺の藤の花に、もしやほととぎすは来て鳴かず、むなしく散らしてしまうのではないか。

立山に　降り置ける雪を　常夏に
見れども飽かず　神からならし
（巻17－4001）

立山に降り積もっている雪を、夏でも見るけれど見飽きない。山の神のせいであるに違いない。

雄神川　紅にほふ　娘子らし
葦付取ると　瀬に立たすらし
（巻17－4021）

訳
雄神川（庄川）が紅色に明るく映えている。乙女たちが、葦付を採るとて、浅瀬に立っているにちがいない。

万葉集最後の歌

新しき　年の初めの　初春の
今日降る　雪の　いやしけ吉事
（巻20－4516）

初春の今日降り積もる雪のように、よい事がますます重なりますように。

この時、家持42歳。以後68歳で亡くなるまでの25年間、家持は一首も歌を残していません。

越中を去る時の歌

しなざかる　越に五年　住み住みて
立ち別れまく　惜しき夕かも
（巻19－4250）

遠く離れた越中に五年間住み続けて、今こうして別れなければならないことの、なんと惜しい宵であることか。

「しな離る」は都から遠く離れた、の意。少納言となって都へ戻ることになった家持が、餞別の宴で詠んだ歌です。

立山に　降り置ける雪を　常夏に
見れども飽かず　神からならし
（巻17－4001）

立山に降り積もっている雪を、夏でも見るけれど見飽きない。山の神のせいであるに違いない。

雄神川　紅にほふ　娘子らし
葦付取ると　瀬に立たすらし
（巻17－4021）

訳
雄神川（庄川）が紅色に明るく映えている。乙女たちが、葦付を採るとて、浅瀬に立っているにちがいない。

玉くしげ　二上山に　鳴く鳥の
声の恋しき　時は来にけり
（巻17－3987）

二上山に鳴くホトトギスの、声の恋しい季節がやってきた。

万葉集を楽しもう

いざ！万葉歴史館へ！

高岡万葉歴史館
〒933-0116
高岡市伏木一宮1-11-11
tel0766-44-5511
fax0766-44-7335
http://www.manreki.com

〔アクセス〕JR北陸本線高岡駅より車で20分、JR氷見線伏木駅より徒歩20分
〔休館日〕火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
〔開館時間〕4～10月は午前9時～午後6時（入館は午後5時15分まで）
11～3月は午前9時～午後5時（入館は午後4時15分まで）
〔入館料〕一般・高校・大学¥210（団体割引有り）、小中学生は無料

富山県民はもとより、全国の万葉集の研究者や愛好者の学習及び交流の拠点となっている施設。常設展示室では、家持の半生を語る『家持劇場』、家持の歌の世界を多彩な映像で紹介するメディアボックス、四季のシンボル造形など越中万葉の世界を多面的に展開します。企画展示室では、「天平万葉」を代表する歌と歌人、その時代背景をパネルで展示。また春や秋の特別企画も行っています。講座、セミナー等については、春季、秋季の万葉セミナーを開講し、学習講座の入門講座を始め、万葉集や家持をテーマとした様々な講座が開講されています。

【万葉を愛する会】会員募集中♪
☆活動：会報の発行・勉強会等・
ミニコンサート・バスツアーなど
☆特典：万葉歴史館の入館無料
企画展・講座等のご案内またはご招待 など
☆年会費：二千円　詳しくは万葉歴史館まで

現代語訳を楽しむ

「万葉集」、興味はあるけど、でも和歌はちょっと…という方には、わかりやす～い現代語訳で楽しむところから入るといいでしょう。巻ごと、人物・自然などテーマごとに歌が整理されており、解説も分かりやすさを重視した、充実した入門編のホームページがありますよ。

http://www6.airnet.ne.jp/manyo/main/home.html

登場人物・歴史・時代背景を知りたいなら

万葉集の成り立ち、時代背景や代表歌人が、地図や図表で明快に解説されています。雑多な万葉集の世界の要所を押さえるのに最適の1冊です。そこからさらに興味の持てる分野や人物を掘り下げていくといいでしょう。

青春出版社 1080円（＋税）

植物がお好きな方なら

万葉集中、草木を詠み込んだ歌はなんと２２４０首余り。万葉集の歌の約半数が草木の歌というわけです。左記の『万葉集に歌われた草木』では、１５１種類の草木をカラー写真付き五十音順でデーターベース化し、それぞれの草木にごとに一首ずつ歌を紹介しています。植物図鑑に歌が付いているような感覚で楽しむことができるでしょう。

冬至書房 1800円（＋税）

斬新な視点から入る

万葉集の基礎知識があれば、きっと楽しめる中級者向けの本。「坂上郎女は恋多き女だったのか？」「家持はなぜ晩年まで歌を詠まなかったのか？」「額田王は猿が好物だったか？」「夏に鰻は古代人からの知恵か？」「万葉集は本当に日本人が書いたか？」などのマニアック（？）な万葉集の世界が楽しめる本です。

新人物往来社 2800円（＋税）

果てしなく雑多な世界に、楽しみ方も無限。あなたなりの「万葉集」の楽しみ方を発見して下さい。

【参考文献及び引用】
〔書籍〕「小さな恋の万葉集」（小学館）・「図説 地図とあらすじで読む万葉集」（青春出版社）・「万葉集に歌われた草木」（冬至書房）・「万葉集を知る事典」（東京堂出版）・「万葉集の誕生と大陸文化」（角川選書）・「万葉集101の謎」（新人物往来社）・「大伴家持」（郁朋社）・「万葉集を読むための基礎百科」（學燈社）・「大伴家持」（角川書店）・「万葉集（下）」（旺文社）
〔ウェブ〕Wikipedia・高岡万葉歴史館・ほっとホット高岡・たのしい万葉集